

四半期報告書

(第39期第3四半期)

自 2021年7月1日
至 2021年9月30日

スターツ出版株式会社

東京都江戸川区中葛西五丁目33番14号

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク	3
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
3 経営上の重要な契約等	5
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	6
(2) 新株予約権等の状況	6
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	6
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	6
(5) 大株主の状況	7
(6) 議決権の状況	7
2 役員の状況	7
第4 経理の状況	8
1 四半期財務諸表	
(1) 四半期貸借対照表	9
(2) 四半期損益計算書	11
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	12
2 その他	15
第二部 提出会社の保証会社等の情報	16

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年11月12日
【四半期会計期間】	第39期第3四半期（自 2021年7月1日 至 2021年9月30日）
【会社名】	スターツ出版株式会社
【英訳名】	Starts Publishing Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 菊地 修一
【本店の所在の場所】	東京都江戸川区中葛西五丁目3番14号 同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区京橋一丁目3番1号
【電話番号】	03（6202）0311（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 金子 弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第38期 第3四半期累計期間	第39期 第3四半期累計期間	第38期
会計期間	自2020年1月1日 至2020年9月30日	自2021年1月1日 至2021年9月30日	自2020年1月1日 至2020年12月31日
売上高 (千円)	2,911,020	3,865,511	4,434,682
経常利益又は経常損失(△) (千円)	△63,145	601,823	262,228
四半期(当期)純利益又は四半期 純損失(△) (千円)	△79,723	364,024	173,437
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	540,875	540,875	540,875
発行済株式総数 (株)	1,920,000	1,920,000	1,920,000
純資産額 (千円)	4,484,212	5,096,342	4,832,363
総資産額 (千円)	5,297,571	6,251,441	5,755,723
1株当たり四半期(当期)純利益 又は1株当たり四半期純損失 (△) (円)	△41.53	189.61	90.34
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	35.00
自己資本比率 (%)	84.6	81.5	84.0
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	224,196	1,091,428	61,839
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△69,745	△44,341	△100,654
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△67,275	△67,117	△67,294
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	1,391,416	2,178,102	1,198,132

回次	第38期 第3四半期会計期間	第39期 第3四半期会計期間
会計期間	自2020年7月1日 至2020年9月30日	自2021年7月1日 至2021年9月30日
1株当たり四半期純利益又は1株 当たり四半期純損失(△) (円)	△7.00	48.62

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については関連会社がないため記載しておりません。
4. 第38期第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第39期第3四半期累計期間及び第38期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5. 四半期財務諸表等規則第4条の2第3項により、四半期キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社及び当社の関係会社において営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、第1四半期会計期間より、報告セグメントの名称を従来の「東京マーケティングドメイン」を「メディアソリューション事業」に、「投稿コンテンツドメイン」を「書籍コンテンツ事業」に変更しております。この報告セグメントの名称変更がセグメント情報に与える影響はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症による事業への影響については、引き続き注視してまいります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

① 経営成績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴う度重なる緊急事態宣言等の発出により経済活動が制限されるなど依然として厳しい状況となりました。今後はワクチン接種の進展などにより経済活動の再開が期待されますが、国内外の感染症の動向など依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中で、当社は「感動プロデュース企業へ」という経営ビジョンのもと、既存の出版社の枠にとらわれず「メッセージやストーリーの詰まったコンテンツとサービスで、新たな時間の使い方や、ライフスタイルを提案し、感動の輪を広げる」ことを目的として、紙・電子出版による雑誌や書籍、コミックの発行、女性向けWEBサイト「オズモール」や小説サイト「野いちご」等の運営、オンラインを含むイベント開催とそれらを掛け合わせたPR・販促ソリューションの提供を軸として事業を運営してまいりました。また「デジタルマーケティングを駆使する出版社へ」をスローガンに掲げ、デジタルマーケティングを活用した自社サービスの認知向上にも注力してまいりました。

当第3四半期累計期間は、新型コロナウイルス感染拡大や緊急事態宣言の発出等による影響を大きく受け、施設予約サービス「オズのプレミアム予約」の利用者数が低迷いたしました。一方で、書籍・コミックの販売は発行点数の増加及びSNS等を活用した販促施策が奏功し売上が大きく伸長したことにより、全社業績は堅調に推移いたしました。

このような営業活動の結果、当第3四半期累計期間の売上高は38億65百万円（前年同期比32.8%増）、営業利益は5億5百万円（前年同期は、営業損失1億46百万円）、経常利益は6億1百万円（前年同期は、経常損失63百万円）、四半期純利益は3億64百万円（前年同期は、四半期純損失79百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期会計期間より、報告セグメントの名称を従来の「東京マーケティングドメイン」を「メディアソリューション事業」に、「投稿コンテンツドメイン」を「書籍コンテンツ事業」に変更しております。この報告セグメントの名称変更がセグメント情報に与える影響はありません。

<メディアソリューション事業>

メディアソリューション事業では、オリジナルのマーケティング・モデルを創造するという戦略のもと、当社独自の基準で厳選したビューティサロン・ホテル・レストラン等の施設予約サービスを提供する「オズのプレミアム予約」と、「オズモール」「オズマガジン」「メトロミニッツ」を中心とした自社メディアとSNSコミュニティ「東京女子部」等を活用したPR・販促ソリューションを展開してまいりました。

「オズのプレミアム予約」では、ユーザー満足度の高い施設の開拓と予約プランの開発やSEO等のユーザー集客施策の強化、CRM強化によるユーザーロイヤルティの向上に注力してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大による政府・自治体からの外出自粛要請及び掲載施設の休業、営業時間短縮などの影響を受け利用者数が低迷しております。

PR・販促ソリューションでは、度重なる緊急事態宣言の発出等により雑誌及びWEB広告の掲載見合わせ、タイアップイベントの延期等が発生しましたが、フリーマガジン「メトロミニッツ」のリニューアル、SNSや動画、オンラインイベントを掛け合わせた提案が奏功し受注が復調したことにより、前年同期と比較して売上高が増加いたしました。

このような営業活動の結果、メディアソリューション事業の売上高は15億32百万円（前年同期比6.0%増）、営業損失は4億3百万円（前年同期は、営業損失4億70百万円）となりました。

<書籍コンテンツ事業>

書籍コンテンツ事業では、書籍・コミックの発行点数の増加、SNS等を活用した販促施策に注力してまいりました。書籍の販売は「スターツ出版文庫」の売れ行きが新刊・既刊ともに好調であり、また昨年創刊した「ベリーズファンタジー」「野いちごジュニア文庫」が順調に売れ行きを伸ばしたことにより売上高が好調に推移いたしました。コミックの販売は、昨年12月に創刊した「ベリーズファンタジーコミックス」の好調な売れ行きと各レーベルの発行点数の増加及び新規販路の開拓が奏功し売上高が好調に推移いたしました。利益面では、利益率が高い紙の既刊書籍の増刷及び電子コミック、電子書籍の販売が増加したことにより、前年同期と比較して利益率が上昇いたしました。

新たな取組みとして、5月に男性を含めた幅広い層をターゲットに電子コミック誌『comicグラスト』を創刊し、8月からは掲載作品の電子単行本の販売を開始しております。

このような営業活動の結果、書籍コンテンツ事業の売上高は23億32百万円（前年同期比59.2%増）、営業利益は9億79百万円（前年同期比153.0%増）となりました。

②財政状態の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末と比べて4億95百万円増加し、62億51百万円となりました。

流動資産は、売掛金が1億93百万円、その他流動資産が2億28百万円減少した一方で、現金及び預金が9億79百万円増加したこと等により、前事業年度末と比べて5億91百万円増加し、52億22百万円となりました。

固定資産は、減価償却が進んだこと等により前事業年度末と比べて95百万円減少し、10億28百万円となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末の負債は、前事業年度末と比べて2億31百万円増加し、11億55百万円となりました。

流動負債は、買掛金が67百万円減少した一方で、未払法人税等が2億3百万円、賞与引当金が73百万円、返品調整引当金が22百万円増加したこと等により、前事業年度末と比べて2億72百万円増加し、9億95百万円となりました。

固定負債は、前事業年度末と比べて40百万円減少し、1億59百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末と比べて2億63百万円増加し、50億96百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間における現金および現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ9億79百万円増加し、21億78百万円となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、たな卸資産の増加44百万円、仕入債務の減少67百万円による資金の使用の一方で、税引前四半期純利益6億1百万円、売上債権の減少1億93百万円、その他の資産の減少2億14百万円等の資金の獲得により、10億91百万円の資金を獲得（前年同四半期は2億24百万円の資金を獲得）いたしました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、「オズモール」のシステム開発等の無形固定資産の取得33百万円等により、44百万円の資金を使用（前年同四半期は69百万円の資金を使用）いたしました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払により、67百万円の資金を使用（前年同四半期は67百万円の資金を使用）いたしました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当第3四半期累計期間において、重要な変更はありません。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

①キャッシュ・フローについて

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末残高11億98百万円に対して9億79百万円増加し、21億78百万円となりました。なお、当第3四半期累計期間におけるキャッシュ・フローの概況は「(2) キャッシュ・フローの状況」をご参照下さい。

②資金需要

当社の事業活動における資金需要は、運転資金需要と設備資金需要の二つがあります。運転資金需要のうち主なものは、雑誌、書籍等の製品の製造費や販売費及び一般管理費等の営業費用によるものであります。また、設備資金需要としては、オズモールや小説サイトを運営するためのシステム開発やインフラ強化等によるものであります。

③財務政策

当社は現在、運転資金につきましては、全て自己資金により充当しております。また、設備資金につきましても全て自己資金の範囲内で計画しております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,080,000
計	2,080,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年11月12日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	1,920,000	1,920,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	1,920,000	1,920,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
2021年7月1日～ 2021年9月30日	—	1,920,000	—	540,875	—	536,125

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2021年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 100	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 1,919,600	19,196	—
単元未満株式	普通株式 300	—	—
発行済株式総数	1,920,000	—	—
総株主の議決権	—	19,196	—

(注) 単元未満株式数には、当社所有の自己株式147株が含まれております。

② 【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
スターツ出版株式会社	東京都江戸川区中葛西五丁目33番14号	100	—	100	0.0
計	—	100	—	100	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期財務諸表等規則第4条の2第3項により、四半期キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第3四半期累計期間（2021年1月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、監査法人日本橋事務所による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,198,132	2,178,102
売掛金	1,606,714	1,412,879
製品	49,225	69,578
仕掛品	43,625	67,394
前払費用	21,577	34,014
未収還付法人税等	27,466	-
関係会社預け金	1,500,000	1,500,000
その他	238,286	10,109
返品債権特別勘定	△53,452	△48,686
貸倒引当金	△804	△939
流動資産合計	4,630,769	5,222,454
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備（純額）	18,804	17,479
工具、器具及び備品（純額）	8,963	7,798
有形固定資産合計	27,767	25,278
無形固定資産		
商標権	1,069	824
ソフトウェア	246,707	190,049
ソフトウェア仮勘定	2,843	4,686
電話加入権	2,376	2,376
無形固定資産合計	252,996	197,936
投資その他の資産		
親会社株式	620,775	577,239
投資有価証券	94,044	90,228
差入保証金	96,995	96,895
その他	32,373	41,408
投資その他の資産合計	844,189	805,772
固定資産合計	1,124,953	1,028,987
資産合計	5,755,723	6,251,441

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	332,573	265,540
未払金	35,998	28,043
未払費用	27,934	44,512
未払法人税等	-	203,225
未払事業所税	4,286	2,749
未払消費税等	20,752	58,053
前受金	3,803	11,586
預り金	42,485	28,616
賞与引当金	24,500	98,000
返品調整引当金	227,347	249,869
ポイント引当金	3,524	5,514
流動負債合計	723,205	995,711
固定負債		
繰延税金負債	133,914	87,328
退職給付引当金	12,639	15,258
役員退職慰労引当金	53,600	56,800
固定負債合計	200,154	159,387
負債合計	923,359	1,155,098
純資産の部		
株主資本		
資本金	540,875	540,875
資本剰余金	536,125	536,125
利益剰余金	3,306,216	3,603,045
自己株式	△350	△350
株主資本合計	4,382,866	4,679,695
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	449,496	416,646
評価・換算差額等合計	449,496	416,646
純資産合計	4,832,363	5,096,342
負債純資産合計	5,755,723	6,251,441

(2) 【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
売上高	2,911,020	3,865,511
売上原価	2,003,656	2,096,023
売上総利益	907,364	1,769,488
返品調整引当金戻入額	211,470	227,347
返品調整引当金繰入額	207,931	249,869
差引売上総利益	910,902	1,746,966
販売費及び一般管理費	1,057,778	1,241,566
営業利益又は営業損失(△)	△146,875	505,400
営業外収益		
受取利息	5,618	5,619
受取配当金	71,942	81,112
雑収入	5,284	9,731
貸倒引当金戻入額	946	—
営業外収益合計	83,791	96,464
営業外費用		
雑損失	61	38
為替差損	—	1
営業外費用合計	61	40
経常利益又は経常損失(△)	△63,145	601,823
特別損失		
固定資産除却損	—	560
特別損失合計	—	560
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△63,145	601,263
法人税、住民税及び事業税	32,090	269,323
法人税等調整額	△15,512	△32,083
法人税等合計	16,577	237,239
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△79,723	364,024

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△63,145	601,263
減価償却費	96,413	93,163
固定資産除却損	-	560
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△637	134
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	2,600	3,200
賞与引当金の増減額 (△は減少)	66,000	73,500
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	6,871	2,619
返品債権特別勘定の増減額 (△は減少)	△39,232	△4,766
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△3,538	22,521
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△2,554	1,990
受取利息及び受取配当金	△77,560	△86,732
売上債権の増減額 (△は増加)	532,527	193,835
たな卸資産の増減額 (△は増加)	28,301	△44,122
その他の資産の増減額 (△は増加)	△23,871	214,408
仕入債務の増減額 (△は減少)	△36,657	△67,033
未払金の増減額 (△は減少)	△4,066	△7,469
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△41,530	37,301
その他の負債の増減額 (△は減少)	△4,555	8,954
その他	△17,252	3,406
小計	418,109	1,046,735
利息及び配当金の受取額	26,186	86,732
法人税等の支払額	△220,098	△42,039
営業活動によるキャッシュ・フロー	224,196	1,091,428
投資活動によるキャッシュ・フロー		
出資金の払込による支出	-	△6,050
有形固定資産の取得による支出	△19,915	△2,590
無形固定資産の取得による支出	△47,276	△33,781
差入保証金の差入による支出	△442	-
保険積立金の積立による支出	△3,011	△3,011
その他の収入	900	1,092
投資活動によるキャッシュ・フロー	△69,745	△44,341
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△67,275	△67,117
財務活動によるキャッシュ・フロー	△67,275	△67,117
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	87,175	979,970
現金及び現金同等物の期首残高	1,304,240	1,198,132
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,391,416	※ 2,178,102

【注記事項】

(追加情報)

(会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響について)

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)(会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響について)に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記の通りであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
現金及び預金勘定	1,391,416千円	2,178,102千円
現金及び現金同等物	1,391,416	2,178,102

(株主資本等関係)

I 前第3四半期累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年3月25日 定時株主総会	普通株式	67,194	35	2019年12月31日	2020年3月26日	利益剰余金

II 当第3四半期累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年3月25日 定時株主総会	普通株式	67,194	35	2020年12月31日	2021年3月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	メディアソリューション事業	書籍コンテンツ事業	計	調整額(注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
売上高					
外部顧客への売上高	1,445,280	1,465,740	2,911,020	—	2,911,020
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,445,280	1,465,740	2,911,020	—	2,911,020
セグメント利益 又は損失(△)	△470,989	387,248	△83,741	△63,134	△146,875

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△63,134千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	メディアソリューション事業	書籍コンテンツ事業	計	調整額(注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
売上高					
外部顧客への売上高	1,532,661	2,332,850	3,865,511	—	3,865,511
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,532,661	2,332,850	3,865,511	—	3,865,511
セグメント利益 又は損失(△)	△403,022	979,757	576,735	△71,334	505,400

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△71,334千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 第1四半期会計期間より、報告セグメントの名称を従来の「東京マーケティングドメイン」を「メディアソリューション事業」に、「投稿コンテンツドメイン」を「書籍コンテンツ事業」に変更しております。この報告セグメントの名称変更がセグメント情報に与える影響はありません。なお、前第3四半期累計期間の報告セグメントについても、変更後の名称で表示しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失(△)	△41円53銭	189円61銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益又は四半期純損失(△)(千円)	△79,723	364,024
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失(△)(千円)	△79,723	364,024
普通株式の期中平均株式数(株)	1,919,853	1,919,853

(注) 前第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。当第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月12日

スターツ出版株式会社

取締役会 御中

監査法人日本橋事務所

東京都中央区

指定社員 公認会計士 古川 誉
業務執行社員

指定社員 公認会計士 柳 吉昭
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているスターツ出版株式会社の2021年1月1日から2021年12月31日までの第39期事業年度の第3四半期会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第3四半期累計期間（2021年1月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、スターツ出版株式会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。